

# 男女平等参画を推進する社会づくり

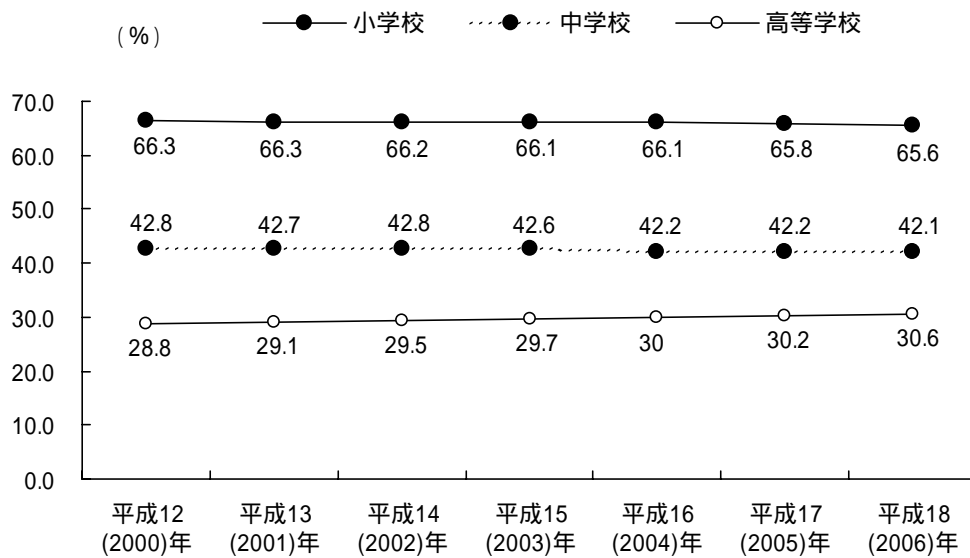
## - 1 教育・学習

### 1 公立小学校・中学校・高等学校における女性教員比率

公立小学校・中学校・高等学校における女性教員比率は都・全国ともほぼ横ばいであるが、全国に比べ都は若干高くなっている。

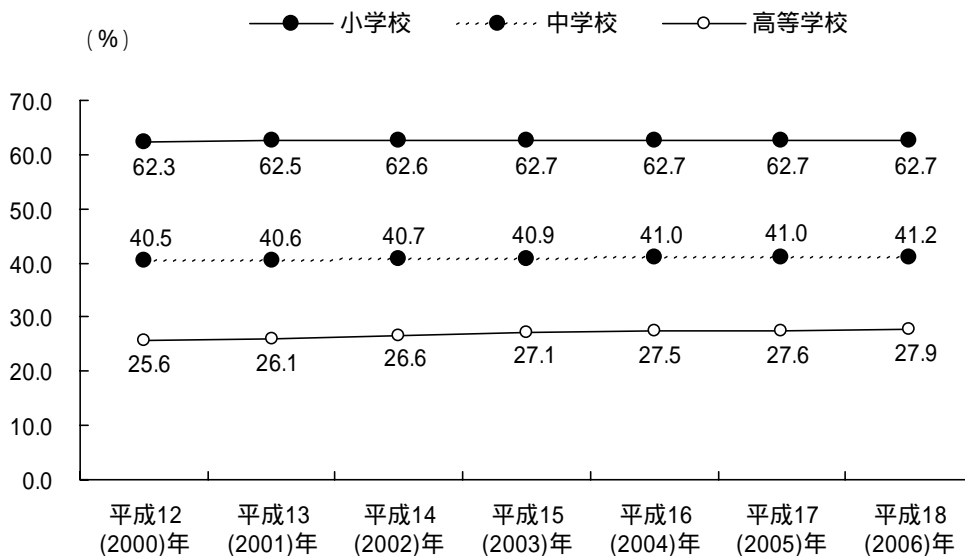
図表 - 1 - 1 公立小・中学校・高等学校における女性教員比率の推移（都・全国）

#### <都>



資料：東京都教育委員会「公立学校統計調査報告書・学校調査編」

#### <全国>



注1：小学校・中学校ともに、教員数は本務者で、臨時任用教員を含む。

注2：中学校は通信制を除く。

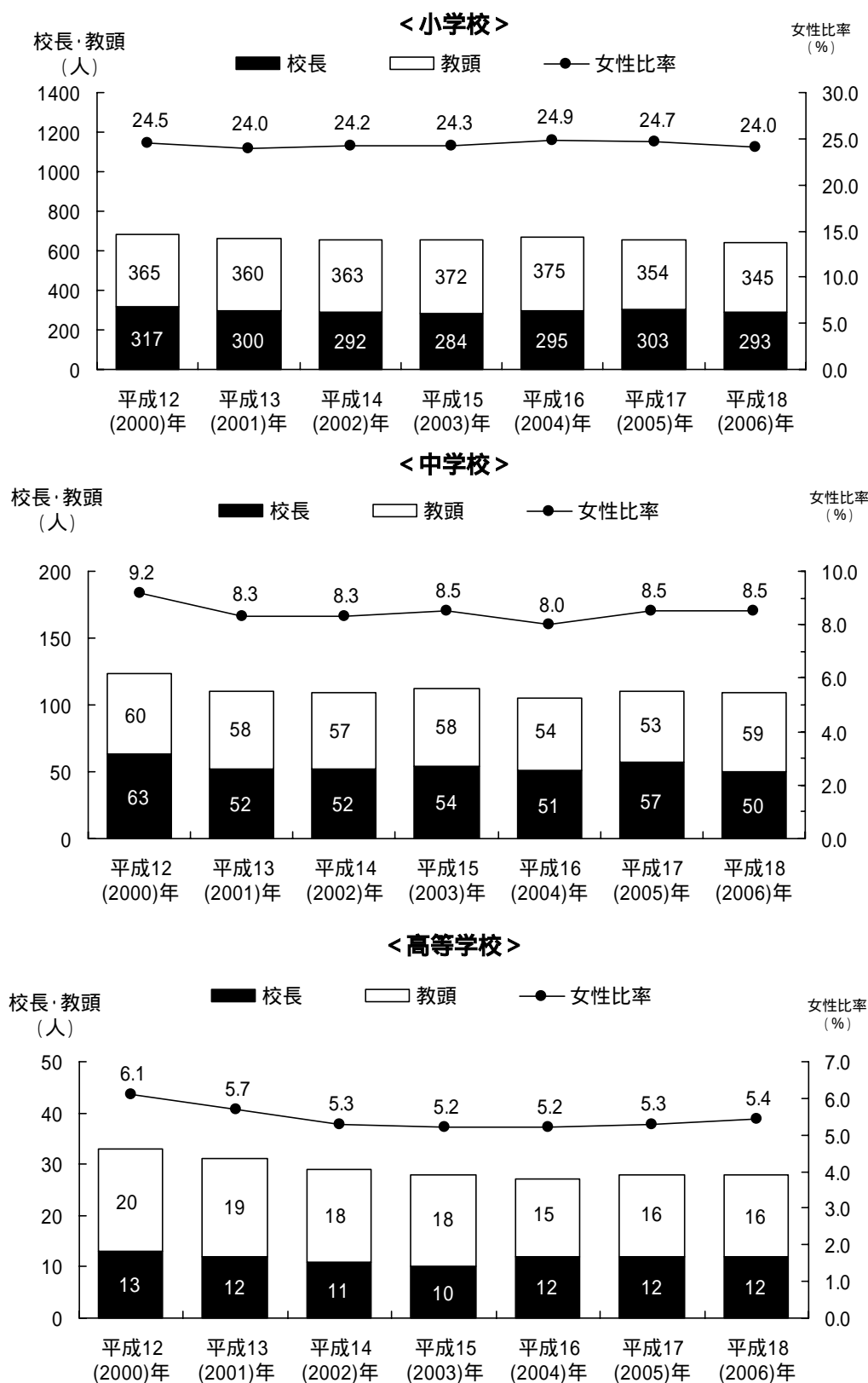
注3：各年5月1日現在。

資料：文部科学省「学校基本調査」

## 2 校長・教頭に占める女性の割合の推移

平成 18 年度の都の校長・教頭に占める女性の割合は、小学校が 24.0%、中学校が 8.5%、高等学校が 5.4% となっている。

図表 - 2 - 1 校長・教頭に占める女性の割合の推移（都）



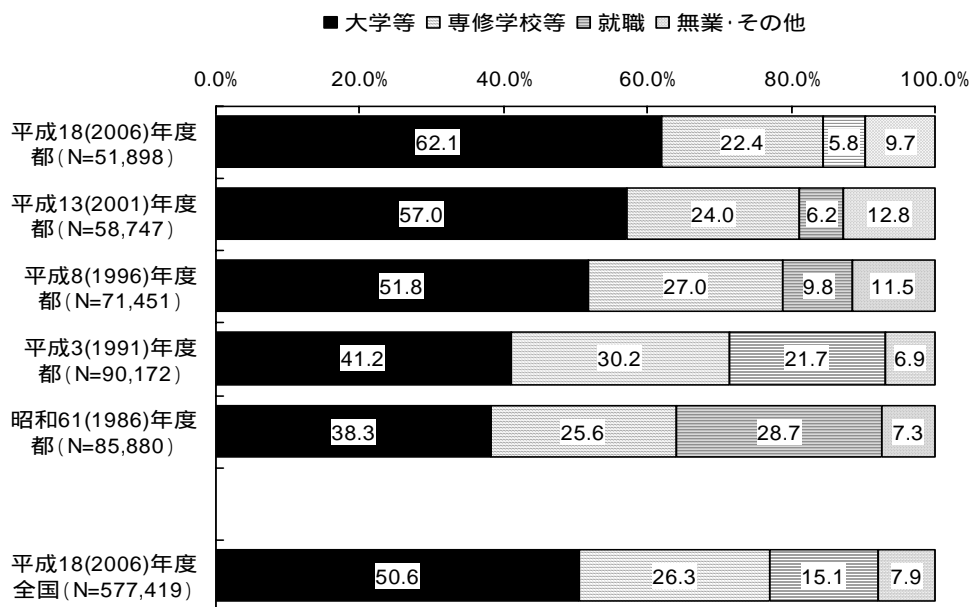
注：高校は、全日制・定時制の合計数、各年 5 月 1 日現在。

資料：東京都教育委員会「公立学校統計調査報告書・学校調査編」

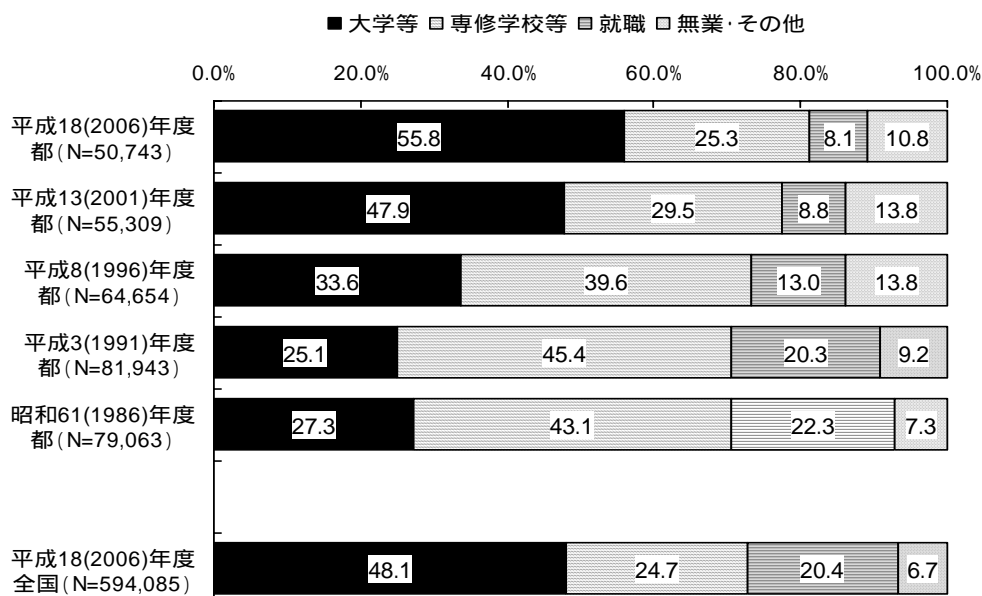
### 3 高等学校卒業者の進路別構成比の推移

都の高等学校卒業者の進路の推移をみると、大学等への進学割合は増加傾向にある。平成18年度の大学等への進学は女子学生が62.1%と男子学生の55.8%を上回っている。また、全国に比べて都の方が男女とも大学等への進学率が高くなっている。

図表 - 3 - 1 高等学校卒業者の進路別構成比の推移（都・全国）  
 <女子学生>



#### <男子学生>



注1：大学等は、大学学部、短期大学本科、大学・短期大学の通信教育部、大学・短期大学の別科、高等学校専攻科、盲・聾（ろう）・養護学校高等部専攻科

注2：「就職」の割合は、「学校基本調査」掲載の就職者数から算出したもので、同資料掲載の「就職率」とは異なる。

注3：“その他”に、「死亡・不詳の者」、「それ以外の者」を含む。

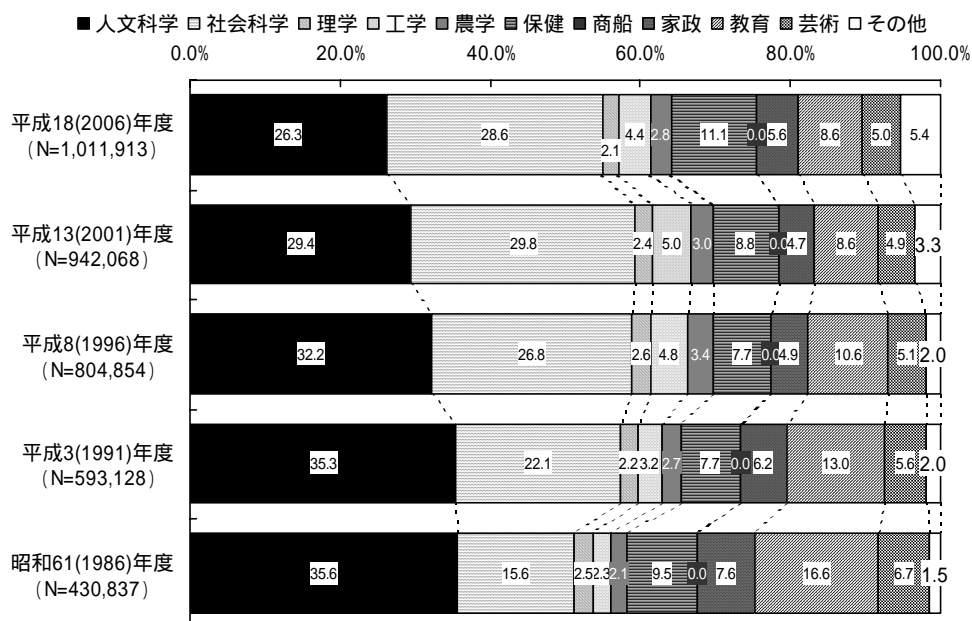
注4：各年度5月1日現在。

資料：東京都総務局「学校基本調査」  
 文部科学省「学校基本調査」

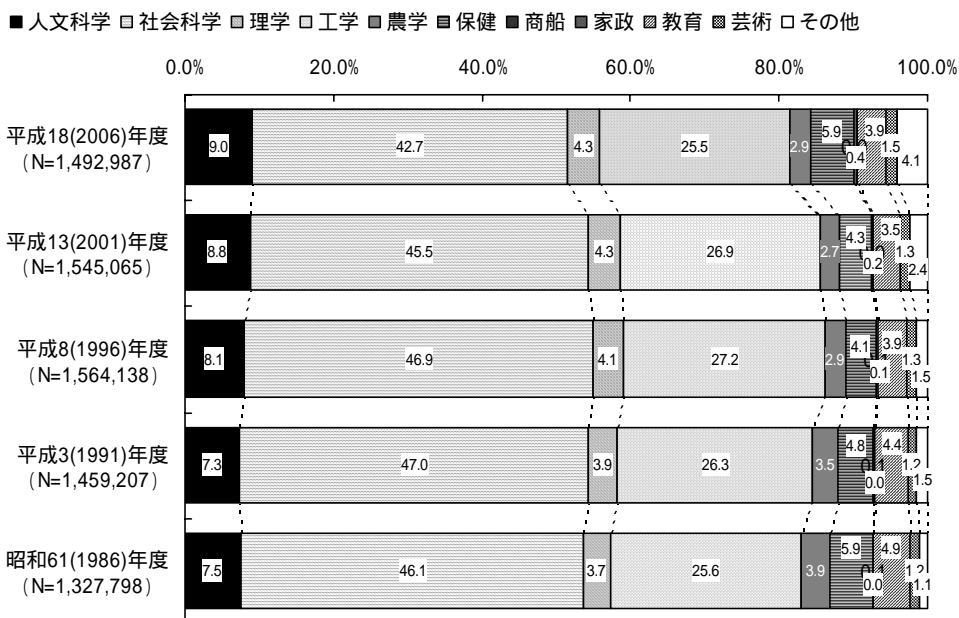
#### 4 大学生の学部別構成の推移

大学生の学部別構成の推移をみると、女子学生では人文科学の割合が低下傾向にある反面、社会科学の割合が増加しており、平成 18 年度には社会科学が 28.6%と最も多くなっている。男子学生にはあまり変化が見られず、平成 18 年度も社会科学が 42.7%と最も多くなっている。

図表 - 4 - 1 大学生の学部別構成の推移 (全国)  
<女子学生>



#### <男子学生>



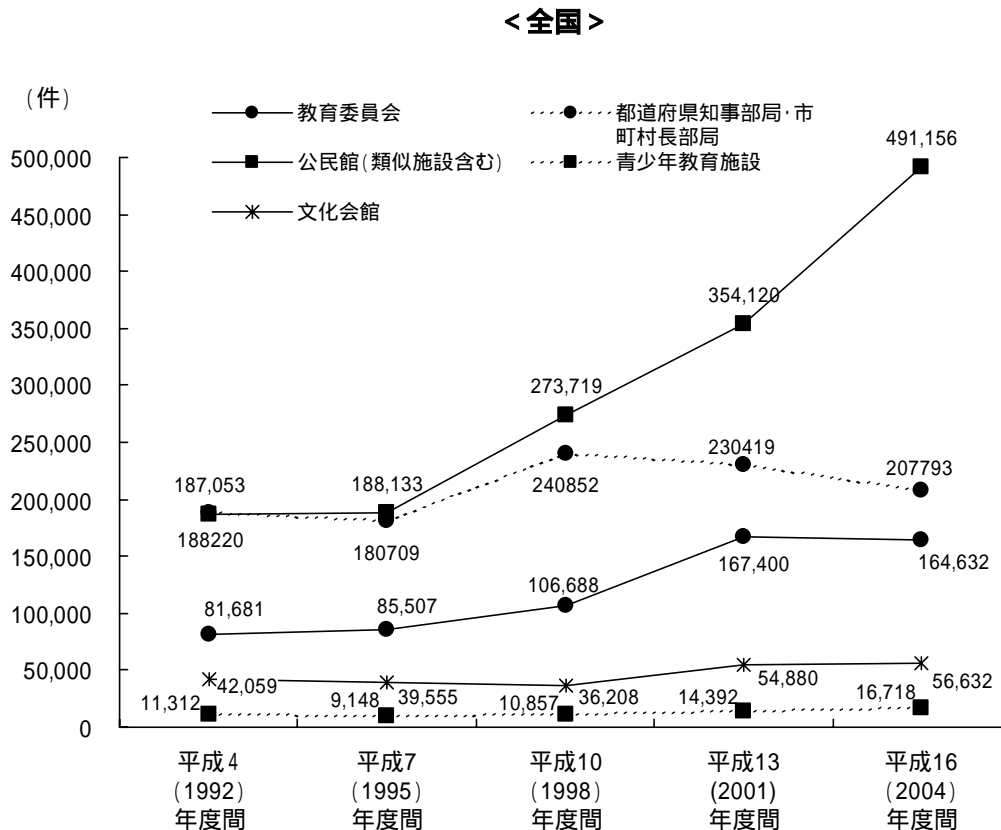
注：学部学生を関係学科により分類、各年度 5 月 1 日現在。

資料：文部科学省「学校基本調査」

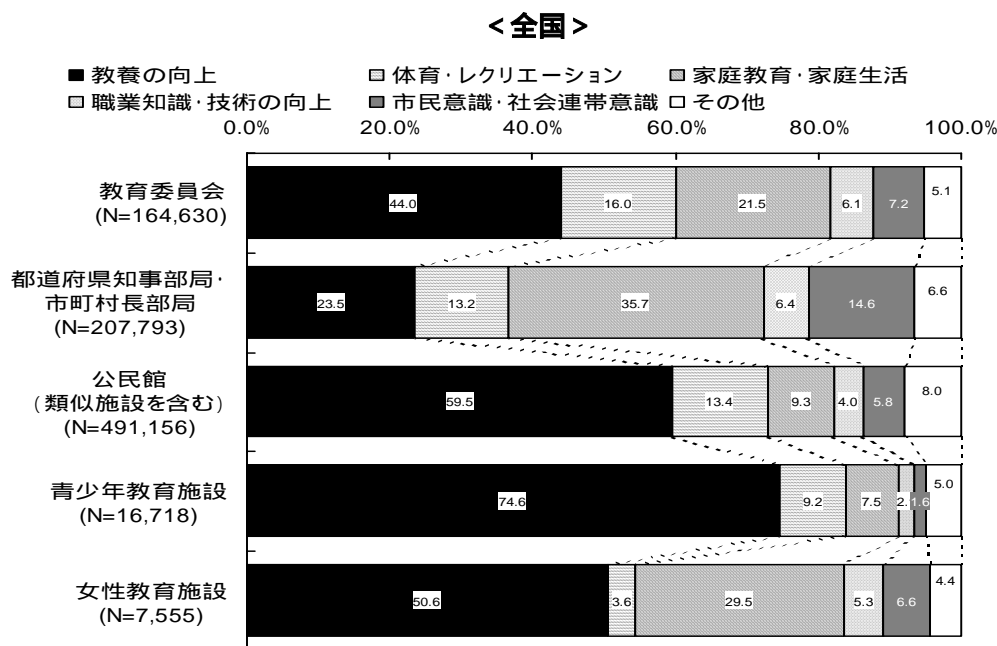
## 5 多様な学習機会の提供

学習内容別学級・講座数は、公民館（類似施設を含む）での講座が最も多く、平成4年度間に比べて2.6倍に増加している。学習内容別にみると、「教養の向上」の占める割合が多くなってきている。

図表 - 5 - 1 学習内容別学級・講座数の推移（全国）



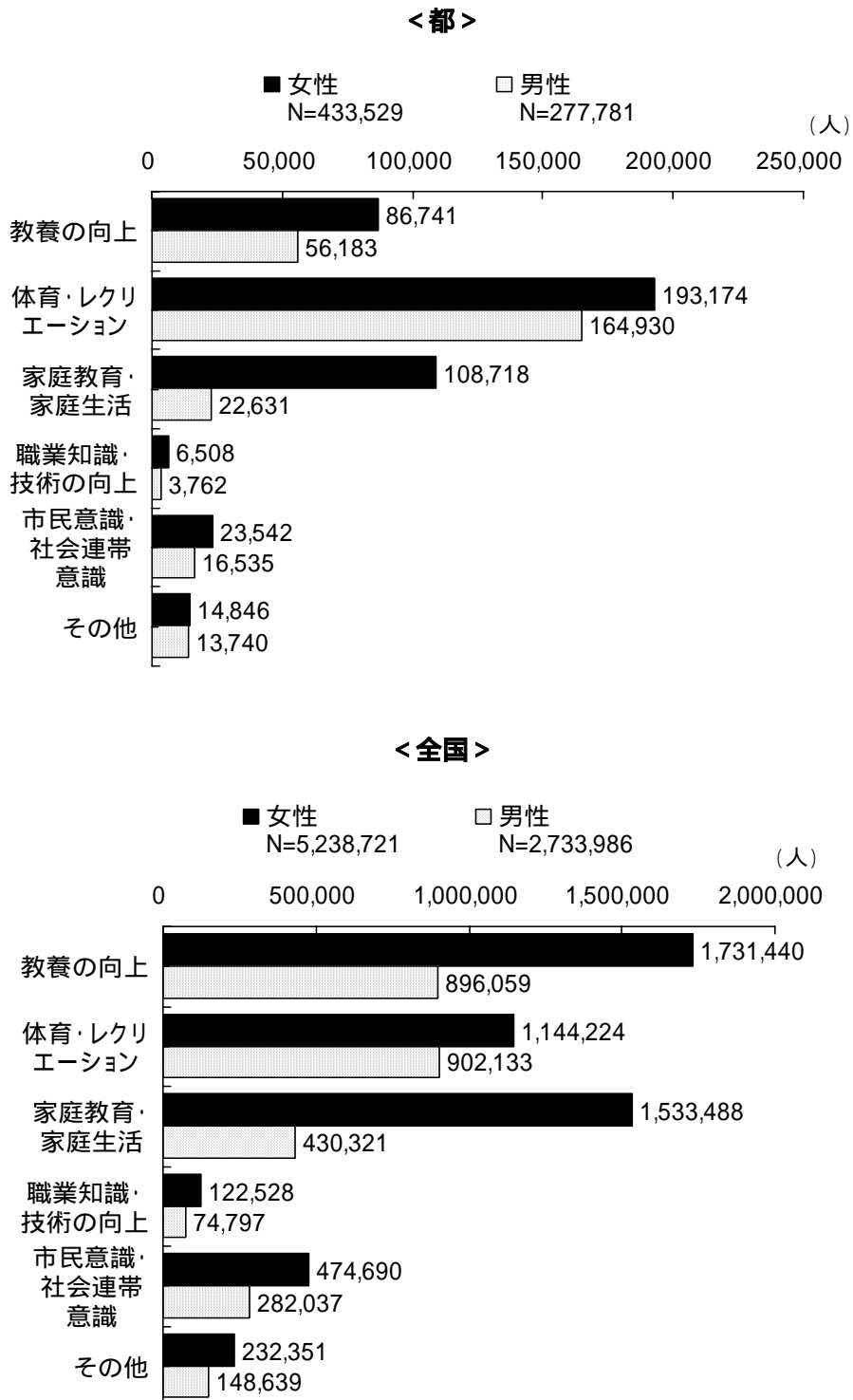
図表 - 5 - 2 学習内容別学級・講座数の構成比（全国）



資料：文部科学省「平成17年度社会教育調査」

受講者全体の数は、都・全国ともに女性が多くなっている。学習内容別にみると、都では男女ともに「体育・レクリエーション」の受講者が特に多い。全国では、女性は「教養の向上」、「家庭教育・家庭生活」、男性は「体育・レクリエーション」、「教養の向上」の受講者が多くなっている。

図表 - 5 - 3 学習内容別学級・講座受講者数の状況（都・全国）



資料：文部科学省「平成 17 年度社会教育調査」